

平成 27 年度第 3 回遠野市総合計画審議会  
基本構想（案）諮問答申内容審議（第 1 班）

平成 27 年 5 月 13 日

1 基本構想について（P48～52）

(1) 将来像の基本的な考え方について（P49）

原案通りで了とする。

- 「市民と行政との協働」とあるが、どういう方向なのか、具体的に考えるべき。実際にどう動くのか。プログラムがほしい。  
→基本計画で具体化していく。
- 遠野市民憲章もあるが、遠野スタイルの定義は何か。どっちが上位なのか。その関係性をわかりやすくしてほしい。
- 「永遠」の考え方は何か。生き物としてのつながりか。自然なのか。遠野スタイルとの関係は何か。どっちが重要なのか。関係性をわかりやすくしてほしい。  
→遠野スタイルの創造は、50 ページの 3 つが関連しあって、…
- 遠野スタイルの 3 つを具体的に謳っていったほうが良いのではないか。

(2) 基本理念について（P50、51）

「遠野スタイルの創造」と「遠野スタイルの創造・発展」に 2 分した。

- 遠野スタイルの 3 つの具体的な違いは何か。関連するものである。説明に難しい。  
→具体的なイメージは、国や県に要望しても解決しないものを、自らやれるものをやるような意識の醸成である。
- まちづくりをするときに、協働という言葉が使われるが市民は理解しているか。市民と行政との協働の理想形がわからない。課題を持って取り組みことは賛成。単に協働という言葉では理解できない。  
→地域課題をどう解決していくか。地区センターが中心となっていくのは進化まちづくり憲章委員会でも提唱されている。
- すばらしい計画、方針。ただ、誰がやっていくものなのか。行政ばかりでなく、少しずつ市民していかなければならない。詳しいものを工夫して市民に周知していく。分かりやすいものを。市民に徐々に意識してほしい。
- タイトルの議論は、どこで議論するのか。
- 発展がよい。創造はいい方向に作り出すことだが。
- 今までの実績に基づいて、進化なり発展なのではないか。

- 永遠の日本のふるさと遠野という表現は良い。原風景・人間性も良い。創造という言葉でも良いのではないか。ただ、角度を変えていくのも良いのでは。
- 創造というのは過程であり、これを基に発展させていくのが良いのでは。
- みんなが納得できる表現を。第2ステージとして、進化か発展が良い。どちらでも良い。創造はすでにでき上がっているイメージである。
- 創造は10年行ったので、さらにという意味で、発展や進化が良いのでは。創造は終わった。次のステージへ。
- 市民憲章では、創造が入っている。発展も入っている。
- 市民憲章も時代に合わせて見直していくべき。
- 市民憲章に対し、より具体的な表現が。
- 10年経っても、市民憲章は市民には浸透していない。10年目で納得がいった。長い目で見たほうが良いのでは。
- 継承という言葉があれば、創造でも。
- 一次のキャッチフレーズを受けての二次。一次のままでは同じ。
- 一つに絞らなくても良いのでは。
- 創造を経て進化や発展が良い。
- 検証結果が見えていないが、10年経って市民生活はどうなったのかが分かるような指標がほしい。
- 分かりやすい説明がほしい。創造は創意工夫もある。変える必要があるのか。
- 発展がよい。発展。創造。どちらでも。
- 遠野スタイルという言葉が今回知った。10年前からあった言葉。市民も知らないのではないか。まだ創造の段階では。創造・発展ではないか。
- 創造・発展。28年度からの2ステップ。
- 遠野スタイルが認知されていない。創造・発展として遠野スタイルを知らしめる。広報・テレビだけでは知られない。PRが必要。

(3) 将来像について (P 52)

原案で了とする。

2 計画の大綱について (P 53~58)

(1) 計画の大綱について (P 53)

原案で了とする。

(2) 大綱 1 について (P 54)

原案で了とする。

(3) 大綱 2 について (P 55)

原案で了とする。

- 主な項目で、国民健康保険等に違和感がある。国保は国の施策であるの

だが、解釈は。  
→国保加入者のみならず、健康づくりの取り組みを意味している。  
○ コミュニティとは。

(4)大綱3について (P56)

原案で了とする。

(5)大綱4について (P57)

原案で了とする。

(6)大綱5について (P58)

原案で了とする。

(7)共通優先方針について (当日配付資料)

文言の整理が必要であるが、了とする

- 子育ての方針いいが、中身。幼児教育の支援と謳うなら、無料化を打ち出せないか。  
→基本計画で検討。全国の町村では、保育料や医療費の無償化という例がある。
- コミュニティとは。  
→練り直し。
- 人口減少対策は書かないのか。総合戦略を策定するのだが。  
→言葉が足りなかった。

### 3 全体 (全ページ)

- 55 ページ。福祉について書いているが、介護予防と要支援については書いているが、要介護の方についても含んでいることか。  
→具体的表記については再度検討。
- 骨子はよいが、実際にどう行っていくかが分からない。計画案では読み取れない。計画作りが重要。健康づくりはすべてに通じること。
- 生涯スポーツについて。市民センターや色々な施設の使い方が分からない。使いやすい。グラウンドゴルフは医療費を下げた。軽いスポーツを考えてほしい。冬場に誰でも参加できるスポーツを。
- 少子化対策には、男女の出会いの機会の創出。基本的なこと。  
→総合戦略でどう作り上げていくか。
- 新しい国の政策で、地方に振られているが、遠野市の目玉は。  
→総合計画は均衡ある発展を目指す。地方版総合戦略で盛り込む。

平成 27 年度第 3 回遠野市総合計画審議会  
基本構想（案）諮問答申内容審議（第 2 班）

平成 27 年 5 月 13 日

1 基本構想について（P48～52）

(1) 将来像の基本的な考え方について（P49）

意見なし

(2) 基本理念について（P50、51）

- 進化がよいのではないか。まだまだ発展していく部分がある。
- 前計画で使っている「創造」をそのまま使うことは、事業が進んでいない印象を与えないか。
- 基礎ができている中で、さらに発展、進化など、違う言葉にした方がよい。
- スタイルという言葉がピンとこない。このスタイルから変えていきたい。漠然としたイメージではなく、心に響く言葉を。

(3) 将来像について（P52）

- 前の 10 年を踏まえ、さらにという表現。
- コメントの 5 行は今後の課題、分科会として提案。趣旨は将来像なので、「永遠のふるさと遠野」で決定としたい。

2 計画の大綱について（P53～58）

(1) 計画の大綱について（P53）

- 市民憲章を変える機会はないのか。総合計画が変われば、市民憲章も変わって当然では。
- 総合計画が縛られてしまっているイメージがある。憲章を否定するものではないが、無いほうがよい。

(2) 大綱 1 について（P54）

- 3 行目「遠野らしい」という表現が曖昧と感じられる。
- 受け手によってイメージが変わってしまう。昔ながらの歴史、自然と調和など具体的に示すべき。

(3) 大綱 2 について（P55）

意見なし

(4) 大綱 3 について（P56）

意見なし

(5)大綱4について (P57)

意見なし

(6)大綱5について (P58)

意見なし

(7)共通優先方針について (当日配付資料)

- 単に人口減少の資料提示ではなく、それをどうしていくのかを提示する必要がある。
- 共通優先の割に、おとなしい。積極性がほしい。市民を引っ張るような強い文面に。

3 全体 (全ページ)

- 思いが詰まりすぎて文章が長すぎる。網羅するためには仕方がないことが気になる。